

# 「低コスト造林研修会」を開催しました

## 1 はじめに

県内の木材需要量は、合板工場や木質バイオマス発電所への原木供給量が増えたため、東日本大震災以前の実績を上回り、伐採面積も増加しています。

一方、森林資源を安定的に確保するには皆伐跡地への再造林が必要ですが、森林所有者の大きな負担を伴うことから、現状では伐採面積の約3割しか実施されておらず、再造林費用の低減が課題となっています。

そこで林業技術センターでは、森林所有者の理解を得て、再造林を促進するため、「低密度植栽」、「一貫作業」、「下刈りの省力化」等の低コスト造林手法について森林所有者等に普及するとともに、意見交換を行う研修会を開催しましたので、その概要について報告します。

## 2 研修会の日程等

今回の研修会は、多くの森林所有者の方に、低コスト造林の手法である低密度植栽や一貫作業等について知っていただくため、森林所有者を

中心に募集しました。研修場所ならびに参加者数等は、表のとおりです。

なお、住田町で開催した研修会は、気仙地方林業振興協議会（大船渡農林振興センター林業振興課が事務局）との共催です。

また、今後さらに低コスト造林を普及していくため、研修で興味をもった技術や自分の森林に導入したい技術とその課題などについて研修会終了後、アンケート調査を行いました。

## 3 研修概要

### (1) 第1回（矢巾町ほか）

林業技術センターのスギ低密度植栽試験地（写真1）で、担当研究員から四段階（haあたり500本、1000本、2000本、3000本）の植栽密度ごとの経過の説明がありました。

また、カラマツの場合、下刈りは、植栽後2年間だけの実施で競合植生より植栽木が高くなることもあり、状況に応じて省略できるとのことでした。

矢巾町有林のカラマツ低密度植栽

地では、通常のhaあたり2500本植えと比較して1000本植えは、経費試算が約半分であったことが述べられました。

紫波町内にあるノースジャパン素材流通協同組合が行っている除草剤散布試験地では、薬剤が植栽木の葉にかかると枯れてしまうので、一度雑草を刈り払ってから散布すると、植栽木に影響を与えないようにできるとの説明がありました。

また、下刈対象植生がササの場合、前生樹を主伐する前に全面散布する



写真1 林業技術センター試験地

表 平成30年度低コスト造林研修会日時及び内容

開催日	第1回 9月12日（水）	第2回 9月26日（水）	第3回 10月16日（火）
場所	林業技術センター 矢巾町和味（町有林） 紫波町赤沢（私有林）	二戸市浄法寺町鏡田（私有林）	住田町世田米（町有林）
研修項目	低密度植栽、下刈省力化 除草剤散布	一貫作業	低密度植栽
総参加者数	18名	16名	22名
うち森林所有者	7名	3名	8名



写真2 二戸市浄法寺町

方法が効果的で、2年間はササの再生が抑制できたとの情報提供がありました。（詳細は、「岩手の林業」平成30年10月号を参照願います）

研修後のアンケートでは、受講者の半数以上が、今後導入したい技術として「低密度植栽」と「下刈り期間の短縮」、「コンテナ苗」がありました。

## (2) 第2回（二戸市、写真2）

無かったこと、重機の使用で作業員の疲労が軽減されたことが報告されました。

また、カラマツの場合、適期（早目）の下刈りが環境改善（蒸れ防止）になるとの説明がありました。

アンケート結果では、「下刈り期間の短縮」に興味を持った方が多く、また「低密度植栽を導入したい」という回答が大部分を占めました。

## (3) 第3回（住田町、写真3）

住田町有林では、スギ伐採跡地にカラマツを四段階の密度（haあたり1000本、1500本、2000本、2500本）で植栽し、どれが最も成長が良いか、また枝打ちの要否や良い材が採れるかなどコスト面

と併せて経過を観察中であり、秋植えのため初年度の下刈りは行わず、北海道の事例をもとに植栽2年目と3年目の2回だけ実施する予定であると町担当者から説明を受けました。

意見交換の際、参加者に再造林が進まない理由を尋ねたところ、「後継者がいないため、再造林しても引き継ぐ人がいない」との回答がありました。

また、シカ被害については、「カラマツの方が他の樹種よりも被害率が低い」という情報提供がありました。

アンケート結果は、「低密度植栽」、「貫作業」や「下刈り期間の短縮」が、導入したい技術として挙げられた一方で、低密度植栽での獣害等、コンテナ苗の価格、気象害の課題を挙げる意見もありました。

## 4 おわりに

再造林の低コスト化は、森林所有者の再造林意欲を高める一助となります。

来年度も、森林所有者等を対象に、補助金を活用した場合のコスト分析など踏み込んだ研修を開催したいと考えています。

林業技術センター 普及班

019（698）1337

**TOYOACE**

最先端をゆく、“働くための”ハイブリッドシステム。

## ハイブリッド輸送時代、はじまる。

信頼性や耐久性にも優れた構成のバラレル式ハイブリッドシステム。専用エンジンの搭載など、群を抜く環境性能はもちろんのこと、圧倒的な低燃費とイーゾードライブとを高い次元で実現した、理想的なディーゼルハイブリッドが完成しました。

高性能ハイブリッドは、もう、乗用車だけのものではありません。

Photo:トヨエース ワイドキャブ・ロングデッキ・フルジャストロー2.0トン積・ディーゼルハイブリッド車。"G パッケージ"装飾車。助手席サンバイザーはメーカーオプション。■写真は合成です。

地域を守る「こども110番の店」

**岩手トヨペット**



本社/盛岡市上田2丁目19-40 ☎019-651-3211 <https://iwate.toyopet-dealer.jp/>

クルマと、つぎの楽しみを。 TOYOPET